

カンショ(サツマイ)のナカジロシタバ防除対策

茨城県病害虫防除所によると、①6月下旬現在、病害虫防除所の調査圃場における被害つる先率（本年値12.8%、平年値2.1%）は平年より高く、寄生虫数（本年値1.4頭、平年値0.1頭）は平年より多い。②例年、被害つる先率は8月から9月にかけて急激に増加するので、今後も平年より高く推移する可能性がある。と予測しています。

このため、6月27日付けで病害虫速報 (<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou/yosatsujoho/documents/sokuhour6-6.pdf>) を発表し注意を喚起しています。

ナカジロシタバの幼虫は齢期が進んで成熟するほど、農薬に対する抵抗力が高まり、防除効果が低下するため、若～中齢の早い時期に薬剤防除することで安定した防除効果が期待できます。

これから9月中にかけて発生して被害が最も大きくなることから、圃場の発生状況をよく観察し、発生に応じて薬剤防除に努めてください。

ナカジロシタバの発生生態

ナカジロシタバは年3回世代を繰り返します。例年は**9月上旬頃から発生する第3世代幼虫の発生量が最も多くなります**。成虫は夜間に飛び回り、葉の裏に卵を産み付けます。ふ化した若齢幼虫は、つる先の若い葉を好んで食害します。中～老齢幼虫になると、昼間は茎葉の陰などにひそみ、夜間に活動して、葉脈だけを残して暴食するようになります。成熟した幼虫は土中にもぐってマユをつくり、その中で蛹になります。



ナカジロシタバ初期被害

ナカジロシタバ中齢幼虫

写真：病害虫防除所



防除対策のポイント

- 1 ナカジロシタバの防除時期は、葉に丸い穴が散見される頃から葉の四分の一くらいが食害されて食害が目立つ時期（幼虫の若～中齢期）に行います。
- 2 薬剤防除の際は、幼虫が潜んでいることが多い葉裏や株の中にまで、薬液が十分かかるよう丁寧に散布します。

表1 ナカジロシタバの主な防除薬剤

(令和6年7月1日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
アニキ乳剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	6
アクセルフロアブル	1,000～2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	22B
ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで / 2回以内	5
フェニックス顆粒水和剤	2,000～6,000倍	収穫前日まで / 2回以内	28
アグロスリン水和剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで / 5回以内	3A
グレースシア乳剤	2,000～3,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	30
トレボン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	3A
トルネードエースDF	2,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	22A
ノーモルト乳剤	1,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	15
ミネクトエクストラSC	10,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	15と28

注1) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

注2) 分類15（ベンゾイル尿素系）の剤は、殺虫効果の発現に比較的時間がかかるため、散布時期を早めにご覧ください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。